

# Kuki



市民と市政をつなぐ情報紙

広報くき

11

2024 (令和6年)  
No.284

▼国際交流パーティーでフィリピンの伝統文化「バンブーダンス」を楽しむ多国籍のこどもたち

特集

## ともに歩む このまちで ～多文化共生のいまとこれから～



こうほう げんご よ  
広報くきは10言語で読むことができます  
You can read this PR magazine in 10 languages.





◀9月21日に日本語教室「にほんご・あいnet」が開催した、フィリピンをテーマとした国際交流パーティーの様子。日本人・フィリピン人のほか、中国・モンゴルなど多国籍の方がフィリピンの料理と文化に触れながら交流を深めました。



※講師は(公財)埼玉県国際交流協会から派遣



## 多文化共生 たぶんか きょうせい

“国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと” (総務省)

国際交流パーティーには、フィリピンにルーツのある方や日本・フィリピンの国際結婚夫婦、国際交流に関心のある方などが参加。フィリピン料理を囲みながら、フィリピンの生活・文化を学び、伝統衣装の試着やバンブーダンスを楽しみました。参加者からは「国が違ってもすぐ親しくなれて楽しかった」などの声が寄せられました。

**多言語による  
情報提供を行っています**

カタログポケット (10言語対応)

広報くき

防災ハザードマップ

久喜市防災ハザードマップ

保健事業日程表

ごみ分別収集表 (6言語対応)

ともに地域をつくり、支える

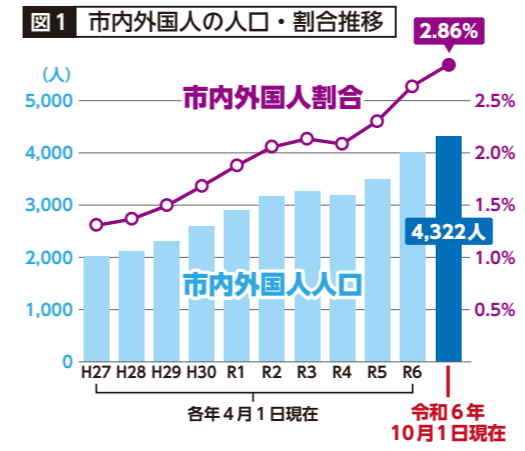
市内においても今後ますます外国人の増加が見込まれる中、必要とされる考え方が「多文化共生」です。この言葉は、文化的背景の異なる者同士が互いを理解し合い、同じ地域でともに生きていくことを指します。人口減少による地域活動の担い手不足にも直面する中で、これから外国人は私たち日本人と同じように産業を支える働き手として、また地域社会の担い手として活躍することが期待されています。

## 多文化共生の時代へ

そのためには、私たちがお互いを受け入れ、地域とともに生きること―多文化共生社会を実現することは、これからのまちづくりにおける重要な課題となっています。

まずはお互いを知ることから

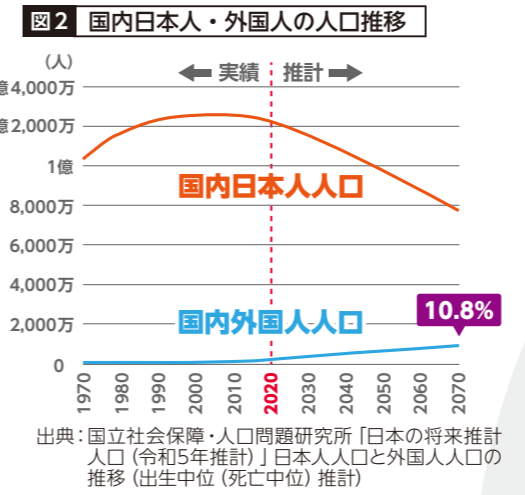
皆さんは普段、外国人と話す機会はあるでしょうか。言葉が通じないかもしれない、考え方が違うかもしれない…。外国人に対して苦手意識を持っている方は多いかもしれません。しかし、日本にいる外国人も、慣れない土地・文化・言葉に戸惑い、不安を抱えながら過ごしている方がたくさんいます。たくさん話してみよう。実は話してみよう。



増え続ける外国人人口

近年、まちなかで外国人を見かけることが多くなったと感じる方は多いのではないだろうか。日本を訪れる外国人は年々増加傾向にあり、出入国在留管理庁によれば、日本に在留する外国人は令和5年末時点で340万人を超え、過去最多を更新しました。

外国人の増加は本市も例外ではなく、コロナ禍を除けば、近年その数は増加の一途を辿っており、現在全市民に占める外国人の割合は約3%に迫ります。10年前と比較すると、その人口は約2倍に伸びているのです。(令和6年10月1日現在 4,322人) [図1]



一方、減り続ける日本人人口

国立社会保障・人口問題研究所が令和5年4月に公表した「日本の将来推計人口(令和5年推計)」によれば、今後50年、日本人の人口は減少し続けると予測されています。本市の人口も、平成17年をピークに緩やかな減少が続いており、今後もこの傾向は続く見込みです。

日本全体で少子高齢化が進み、産業によっては働き手不足が深刻化する中、国は外国人労働者の受け入れ拡大に向けた動きを進めています。今後、国内の外国人人口は現在の倍以上に上昇し、2070年には全人口における割合が10%を超えると予測されています。[図2]

市内の国籍別外国人数 上位6カ国 (令和6年10月1日現在)

①ベトナム	901人	④ブラジル	336人	市内では、ベトナムをはじめとする東南アジアからの外国人が多い傾向にあります。ベトナムでは、技能実習生などが就労のために日本に在留する方が多いと見られています。
②フィリピン	644人	⑤ネパール	318人	
③中国	559人	⑥ミャンマー	250人	

今の特集は、久喜市における多文化共生の「いま」を紹介するとともに、このまちで手を取り合って歩む「これから」の多文化共生について考えます。





### スレース・マリヤムさん

サウジアラビア出身 来日5年目 足利大学工学部4年(留学生)

#### お祭りが楽しくて久喜市に決めた!

幼少期よりサウジアラビアで放送されていた日本のアニメが好きで、いつか日本で生活してみたいと思うようになり、努力実って国費での留学の夢を叶えました。日本語学校で学びながら受験勉強にも励み大学に入学。AI(人工知能)を専攻、エンジニアを目指しています。大学や東京へのアクセスに便利な所に住もうかなと久喜に下見で来てみたら、偶然やっていた駅前のお祭りがとても楽しくて、このまちに住もう!と決めました。

久喜は人が温かくて、心安らぐところ。久喜の甘い梨も大好きです!人生は一度きりをモットーに、人との出会いを大切にしながら念願の日本での生活を有意義に過ごしています。



マリヤムさんはYouTube等で日本の暮らしを発信しており、チャンネル登録者数は約19万人!昨年は久喜提燈祭りの模様も。



くらしげひろこ  
倉茂廣子さん  
(マリヤムさんが「お母さん」と呼ぶ、「日本の母」)

娘のような存在のマリヤムは、社交的で聡明、思いやりもあって、とってもキュート!日本で学んだことを活かして、自分の目標に向かって頑張っていってほしいです。そして、幸せに暮らしてくれることを願っています。



### ダニエル・ビベンズさん

アメリカ出身 来日14年目 市内中学校ALT(主任外国語指導助手)

#### 久喜周辺の居酒屋が好き!

こどもの頃から任天堂のゲームが好きで日本に興味を持っていました。大学で日本の歴史を学び、在学中に交換留学で来日したことを機にもっと日本にいたいと思い、その後久喜市でALTに。日本語はオノマトペ(擬音語)が多くて覚えるのが大変でしたね、「ゴロンする」って何?とか(笑)

このまちのお気に入り、久喜駅周辺の居酒屋やバー、赤ちょうちん。居酒屋の料理はおいしい!妻と出会ったのも駅前でのバーでした。久喜市の方は皆さん優しくありがたいです。学校の生徒たちからもらった手紙は全て大切にっています。



趣味の一つはライオンズの試合観戦。有料の動画配信サービスにも登録するほどの熱の入れようです。



あきこ  
ビベンズ・明子さん  
(ダニエルさんの妻)

何に対しても「ありがとう」や「料理おいしかったよ」と言ってくれる、優しい夫です。私より日本人らしくて、細かい気配りしてくれるし、人の前を通るときに手刀もするんですよ。夫と話すときは、難しい言葉はやさしい日本語に置きかえて、わかりやすい言葉を心がけています。

## このまち 久喜市 で暮らす。



市内在住の外国人や、外国にルーツのある方はどんな方がいるのでしょうか。皆さんが来日した背景や暮らしぶり、身近な人物の声をいくつかご紹介します。

### 久喜市と世界をつなぐ ~異文化交流コラム①

日本の文化や久喜市での日常生活等をSNS等で発信するなど、久喜市と世界の架け橋になっているスレース・マリヤムさん。今年2月には、清久地区婦人会の公開学習会にて「多様性」について講演をされ、伝統衣装の試着を交え、イスラムの慣習を紹介しました(写真①)。

また、9月13日には、久喜市の子どもたちと交流するために久喜南中学校を訪問(写真②)。生徒たちは自分の知らない文化や生活様式に興味津々。サウジアラビア式の挨拶なども交えて交流を楽しんだり、夢や目標に向かって努力することの大切さを自身の経験をもとに話され、有意義な時間となりました。



YouTube



Instagram

▲マリヤムさんのYouTubeチャンネルとInstagram。日本に関心のあるサウジアラビア人から人気を集めており、中には自転車で久喜市内のカフェを巡る趣味の動画なども(写真)。日本への留学を検討しているサウジアラビア人の相談にも乗っているそうです。



講演会では、イスラム文化やサウジアラビアの生活様式などを流ちょうな日本語で解説され、世界の多様さを学ぶことができました。



生徒からは「日本で一番おいしかったものは?」「アラビア語で「好き」って何て言う?」「なぜお祈りをされるのですか?」など、素朴な質問が寄せられました。

### 佐藤 健さん(元の中国名「肖健」)・荊 鴻丹さん

中国出身 来日33年目・15年目 中華料理店「弘園」経営

#### 久喜市は人情のまち!

(健さん) 祖母が日本人だったことが縁で日本に移住しました。最初は「いつになったらこのテレビの言葉が分かるんだろう…」と不安ばかりで、5年くらいは何か夢を見ているような感覚でした。今は久喜市に店を開いて14年になります。中国では餃子は主食なので、日本の餃子定食を見て最初は不思議でしたが、今では私も食べてますよ(笑)

久喜市の好きなのは人情!みんな温かくて優しいです(妻の鴻丹さんもうなずく)。いろいろ苦労もありましたが、地域の皆さんに支えられてきました。これからも人を喜ばせられる料理を、心を込めて作っていきたいと思います。



「料理はいつでも出来立てを提供します」と健さん。鴻丹さんのイチオシは麻婆豆腐!



いまいりいじ  
今井啓己さん  
(久喜東小地区コミュニティ協議会会長)

個人や家族ではもちろん、イベントの打ち上げや懇親会でもよくお店を利用しています。おいしいし、いっぱい食べられる!お二人は温厚・静かで人柄も良いので、ついわがママを言っちゃうこともあるけど、いつまでもおいしい料理を作り続けてほしいです。



左から荊鴻丹さん、佐藤健さん



# 地域に溶け込む。



▲先頭で山車を曳くギャビンさん

**地域活動の担い手として**  
 久喜の夏の風物詩、久喜提燈祭り。各町内の山車が威勢のいい掛け声とともに街中を駆け回る中、新一志んごの山車を曳く屈強な男たちの中に、一際逞しい体つきをした外国人の方がいました。彼の名前は、ギャビン・マティソン。イギリス出身のギャビンさんは、7年前から新一祭典保存会の一員として祭りに参加しています。「町内への引越を機に地域の方から声をかけていただき、夫婦で祭典保存会に入りました。もともとお祭りは大好きなので、伝統の祭りに参加できることを光栄に思います」久喜市出身の女性と結婚したギャビンさんは8歳から空手を習い、日本文化に親しみがあつたといいます。どのような想いで祭りに参加しているのでしょうか。「祭りの歴史を理解し、地域への敬

## “自分は久喜の住民だ！”と改めて認識

「初めて参加したときから歓迎していただき、部外者と感じたことは一度もありません。みんな優しく思いやりがあり、誠実。山車を動かすのは命がけですから、お互いを信頼し、守り合いながら一体となって取り組んでいます」コミュニティを大切にすると、コミュニケーションが大切になるといいます。久喜市で生まれ育ったギャビンさんは、地域の人に自分から挨拶し、



新一祭典保存会 副若頭 木村 正吾さん

ギャビンは温かくて熱い男です！祭りの準備段階から仕事の合間を縫って参加してくれるし、曳き手としても大きな力を発揮しています。自ら周りに声をかけ、周りも彼に寄っていくようなムードメーカー。祭りの担い手不足もある中で、彼は地域に溶け込む力も高く、町内に欠かせない存在になっています。

意と尊敬の念を大切にしながら、地域・家族・久喜市・イギリスを代表しているという責任感・使命感を持って参加しています。自分は久喜の住民だ！と改めて認識しますし、久喜の皆さんを元気づけられる貴重な機会だと感じています」祭典保存会の仲間からの信頼も厚いギャビンさん。ともに祭りを盛り上げる仲間たちのことを兄弟のように思っていると話します。「初めて参加したときから歓迎していただき、部外者と感じたことは一度もありません。みんな優しく思いやりがあり、誠実。山車を動かすのは命がけですから、お互いを信頼し、守り合いながら一体となって取り組んでいます」コミュニティを大切にすると、コミュニケーションが大切になるといいます。久喜市で生まれ育ったギャビンさんは、地域の人に自分から挨拶し、

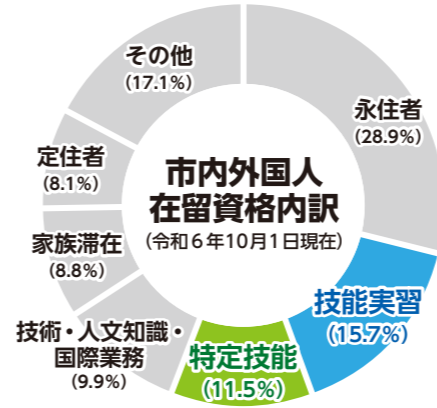


普段は会社経営、映像クリエイター、シネマトグラファー、ゲームプロデューサーなど、マルチに活躍しています。



市民体育祭のメインイベントとなる綱引きでは、地元チームを28年ぶりの決勝に導くなど、獅子奮迅の活躍を見せました。

# 働き、産業を支える。



**貴重な労働力として**  
 近年、国内の慢性的な労働力不足を背景に、日本の技術や知識を外国人実習生に母国へ持ち帰ってもらうことを目的とした従来の技能実習制度(※)のほか、平成31年4月からは、特に人手不足が深刻な産業分野において人材確保を図るための特定技能制度が開始され、外国人労働者の受け入れがさらに拡大しています。制度の目的は異なるものの、これらの制度はいずれも外国人が日本で働く環境を整備したもので、労働力確保の一端を担っています。久喜市においても多くの外国人が製造業の現場などを中心に欠かせない存在となっており、本市の産業を支えています。 ※令和6年6月、技能実習に代わる新たな制度「育成就労」新設のための関連法改正が国会で可決・成立しました。新制度は外国人労働者の確保と育成を目的としています。

## (株)デリカシェフ

セブン-イレブン向けの惣菜などを製造(本社:久喜市)。久喜工場では、技能実習生約60人、特定技能外国人約150人が在籍。(ベトナム、インドネシア、フィリピン、ミャンマーなど)



海外人材支援課 菅原 有紗さん

少子高齢化に伴う若者の採用難などの問題解決も含め、アジア諸国

からの若い方々を受け入れ商品を作っています。日本のルールや文化にも順応して頑張っており、働きを評価された特定技能外国人は現場のリーダーとなって活躍しています。海外人材支援課は、生活面でトラブルになりやすいごみ出しルールの教育や、各種手続きのサポート、また学習面で日本語学習のサポートや技能試験の勉強会を行うなど、外国人の方が日本で活躍していただけのように教育や支援をしています。



特定技能外国人の皆さん

左からクスマさん(インドネシア) アウンさん(ミャンマー) インタンさん(インドネシア)



▲バドミントンで交流を深める日本社員と技能実習生

クスマさん こどもの頃から日本のアニメを見て日本語を勉強していたので、日本にきました。自転車で久喜市内を回るのが好きです。いつか家族で日本に住みたいです。

アウンさん 日本でもっと働きたいので、特定技能2号(※)を目指して勉強しています。休みの日は商業施設に行つてUFOキャッチャーしたり、友達と遊んでいます。

インタンさん 仕事は先輩たちが優しく教えてくれるので順調です。久喜市は東京へのアクセスも良いし、静かで快適です。目標は富士山に登ること、日本人と結婚すること！

※熟練した技術が求められ、在留期間に制限がない。取材した3人とも2号を目指しているとのこと。

## (株)なとり

「チーズ鱈」などおつまみ各種を製造・販売。埼玉工場・埼玉第二工場(久喜市内)で働く外国人38人のうち、技能実習生が14人、特定技能外国人が1人。(ベトナム、ペルー、フィリピン、中国、韓国など)



埼玉第二工場 総務部 関根 雅貴さん

外国人の雇用は、当社で長年培われた技術・知識を開発途上地域等へ供与し、その国の発展に寄与できないかと考えたことがきっかけです。加えて当時は、人口減少社会に突入し、日本全体で人手不足が深刻になりつつあり、当社も例外ではありませんでした。皆さん日本語や仕事の習得スピードが早く、向上心を持って業務に取り組んでくれているので、安定生産に大きく貢献してくれています。技能実習生用の寮を準備し、生活で困ったことがあればすぐに連絡してもらおうなど、生活面を支援しています。



技能実習生 ファム・ヴィさん(ベトナム)

働きながら日本語を勉強するために来日しました。久喜市はいろいろなものがあって便利で良いです。日本語の試験を受けて、より高いレベルの日本語能力を試すことが目標です。



◀市内の埼玉工場・埼玉第二工場は、同社を代表するサラミ類や「チーズ鱈」を製造する主力工場。多くの技能実習生が製造工程に携わり、工場の生産を支えています。

## 久喜市と世界をつなぐ ~異文化交流コラム②

### 国際交流を経験して

現在大学で国際経営学を学ぶ山賀春奈さん。久喜市・ローズバーグ協会の国際交流事業で、令和2年にアメリカのローズバーグ市を訪問し、昨年の夏に市内自宅へホームステイを受け入れました。国際交流は彼女にとってどのような経験だったのでしょうか。



海外の方と友達になるには英語が話せないか...と思っていましたが、話せるか話せないかではなく、話そうとする気持ちがあれば仲良くなれるのだと、考え方が変わりました。また、「国が違うから」「あの国はこうだ」とステレオタイプ的に理解を諦めるのではなく、一人ひとりを個人として理解してあげたいと思っています。国際交流は、久喜市のことや日本の伝統・習慣を改めて勉強し直す良い機会にもなりました。



久喜市のお祭りでみんなで浴衣を着用し、記念に撮影。日本文化を満喫してもらいました。



# 言葉の壁を越えるために。

# 日本語教室ボランティア



1 栗橋にほんご会では、今年、近隣の企業からの要望で15人のベトナム人技能実習生を受け入れ、特別授業を構成。技能検定試験の勉強をサポートし、見事全員を合格に導きました。

2 試験合格後も自主的に教室へ通うベトナム人技能実習生、レーティ・グエットさん(写真中央)は「もっと日本で働きたい。今年はN3(※)に受かりたい!」と目を輝かせます。※日本語認定試験。N1~N5まで5つのレベルに分かれ、N1が最も難しい。

3 中国人のリー・チョウさん(写真右)は「初めてスマホの翻訳アプリを使わずに自分の考えを同僚に理解してもらえました。嬉しくて泣きそうになりました」と感謝の気持ちを先生に伝えました。

4 ときにはゲームを通して日本語に親しむことも。教室を運営する皆さんは、ただ教えるだけでなく、人と人のつながりや親交を深めることも大切にしています。

5 パラグアイ出身のノゾミさん(写真中央)とアルゼンチン出身のエステバンさん(同右)は、栗橋に隣接する五霞町の工場に勤務。日本の好きなのは「文化と治安の良さ」と口を揃えます。

6 「先生が優しく教えてくれるので楽しい!」という小学2年生のガブリエルくん(フィリピン、写真左)と程心ちゃん(中国、同右)。学校の教科書を持ち込み、難しいポイントを先生と一緒にゆっくり学びます。

栗 栗橋にほんご会 鷺 鷺宮国際交流協会 にほんご教室  
南 南栗橋にほんご会 チェブラーシカ に にほんご・あいnet



**A 栗橋にほんご会**  
毎週火曜日・土曜日 10:00~12:00  
栗橋中央コミュニティセンター  
080-6743-7524  
seiji0215@ab.auone-net.jp

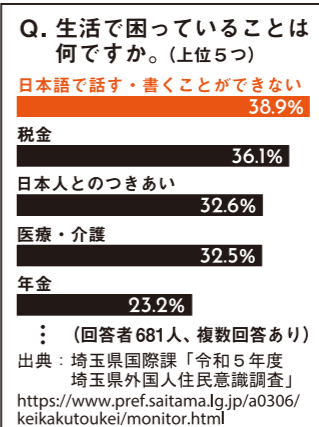
**B 南栗橋にほんご会  
チェブラーシカ**  
毎週日曜日 10:00~12:00  
栗橋コミュニティセンター  
080-9714-6697  
takahashi6697@gmail.com

**C 鷺宮国際交流協会  
にほんご教室**  
毎週水曜日・土曜日 10:00~11:30  
鷺宮東コミュニティセンター  
090-1422-3244  
eba2013@outlook.jp

**D にほんご・あいnet**  
毎週土曜日 ※時間はホームページを確認  
久喜中央コミュニティセンター  
090-5560-8969  
nihongo.ainet@gmail.com

**E にほんごフレンド  
はなしょうぶ (2024年6月設立)**  
火曜日(ほかはお相談ください)  
喜瀬コミュニティセンター  
090-1426-3677  
sun111@indigo.plala.or.jp

日本語に不慣れな外国人を支援するため、市内では5つのボランティア団体が日本語教室を開講しています。もっと日本で働きたい日本人とうまく話したい——日本語を学ぶ理由は人それぞれですが、教室に通う外国人の皆さんは高い学習意欲を持っています。受け入れる日本語教室のスタッフもその熱意に応え、異文化交流を楽しみながら、地域に住む外国人を支えています。毎週末、各教室には賑やかな会話と笑顔が溢れます。



市内で5団体が活動中  
来日する外国人の方が苦勞しているのは、やはり言葉の壁。埼玉県が実施した「令和5年度埼玉県外国人住民意識調査」によれば、県内在住の外国人が生活で一番困っていることは「日本語で話す・書くことができない」ことであり、言葉の壁が日本での生活する上での課題となっていることが分かります。

## INFORMATION

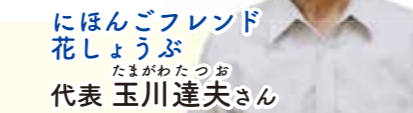
### 日本語ボランティア養成講座

12/1・8・15日(全3回)  
各14時~16時  
ふれあいセンター久喜

定 30人(申込順)  
申問 11月5日(火) 8時30分~22日(金)  
(必着)に、電子申請・直接・メールで  
市民生活課自治振興係  
(☎shiminseikatsu@city.kuki.lg.jp/内線2651)へ

### 地域で楽しく国際交流を

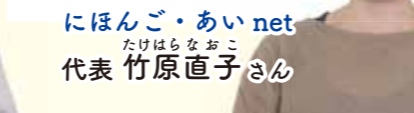
以前国際交流に携わっていたことがあり、教えるほうも学ぶほうも熱心で楽しそうだったことに感動し、今やらないと後悔すると思って立ち上げを決意しました。他国の文化を知って面白いですし、みんなで楽しみながら地域で国際交流ができたかと思えます。日本人と同じように気兼ねなく挨拶ができるようになりますね。



にほんごフレンド  
はなしょうぶ  
代表 玉川達夫さん

### 子どもたちを応援したい

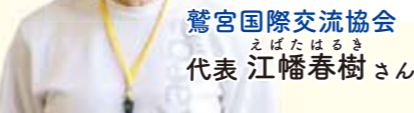
市内小・中学校で日本語指導員を務めています。日常会話には困らなくても、授業で扱う日本語が分からない、外国にルーツのある子どももいます。勉強についていけないから前向きになれない...そんな子どもたちを応援したい。言葉の壁が原因で悩みを抱える保護者にも寄り添えるサポート体制を作っていきたいと考えています。ボランティアは高校生から可能です。



にほんご・あいnet  
代表 竹原直子さん

### 自然な会話で楽しみながら

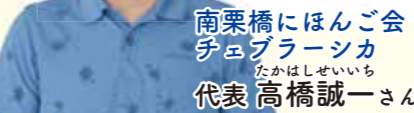
地域の外国人とのコミュニティづくりを目指して、「細く長く続ける」を基本に活動しています。自然な会話の中で自分たちも楽しみながら、皆さんに「楽しかったな」と思ってもらえるように話すことを心がけています。生徒の中には帰国後も「結婚して子どもができた」と報告してくれる方もいて、つながりを嬉しく思います。



鷺宮国際交流協会  
代表 江幡春樹さん

### 息抜きができる場所に

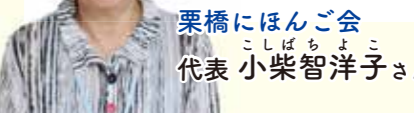
私も海外駐在経験がありますが、海外にいと知り合いが少なく、不安もあります。ここは日本語を学ぶ場所ですが、外国人の皆さんにとって息抜きができる場所、自由に話せる場の一つになってほしい。そして何かひとつでも覚えて帰ってくれたら嬉しいですね。私たちも教える中で学ぶことがあり、自分の勉強にもなっています。



南栗橋にほんご会  
チェブラーシカ  
代表 高橋誠一さん

### 出合いが楽しい

ボランティアを始めて約20年、色々な国籍の方との出合いが楽しくて、日本との文化の違いを聞く面白いですよ。私も逆に少し言葉を教えてもらって、相手に通じるとそれも楽しい。それに、小さなことでも「ありがとう」と言われると、役に立てたかなと嬉しくなります。外国人の皆さんは、ぜひ一度覗くだけでもいいので来てください。



栗橋にほんご会  
代表 小柴智洋子さん





# こころの壁を越えて

このまちで、ともに歩む。



**誰もが自分らしく 安心して暮らせるまちへ**

異文化との出会いは新たな学びや広い視野を得るきっかけになる一方で、私たちは自分たちと違うものに対して心理的な距離を感じ、ときには心を閉ざしてしまうこともあります。同じ日本人同士だって価値観が違うことがあるのですから、出身の国が違えば、その差はさらに大きくなるかもしれません。

でも、国籍や言葉、文化が違っても、私たちは同じ人と人。お互いに歩み寄り、相手を知ること、同じ一人の人間として親しみを感ずることができるとはいいでしょう。多文化共生の定義に「対等な関係を築こう」としながら「対等な関係を築こう」という必要なのは、違いを認め合った上で、お互いに信頼関係を築こうとする姿勢そのものなのかもしれません。

ともに支え合いながら地域で暮らすこと―それは外国人にとっても暮らしやすさに直結するだけではなく、地域に新たな活力をもたらす、私たち自身の暮らしを豊かにすることにもつながります。

日本人も外国人も、誰もが久喜市で自分らしく、安心して暮らせるように。お互いの違いを乗り越え、ともに歩みを進めるために、一人ひとりがこころの壁を越えて――。

平成国際大学では、日本と世界の橋渡しを担う人材を育成するため、留学生が日本語を学ぶ場として、今年度新たに「日本語別科」を設けました。久喜市に住む留学生も多く在籍しています。日本語別科長を務める増古剛久さんに、私たちがこれから多文化共生の時代を迎えるにあたり、持つべき意識などを伺いました。



平成国際大学  
日本語別科長  
増古剛久さん  
一橋大学大学院法学研究科国際関係論専攻博士課程修了。専門は国際関係論。今年4月から平成国際大学の日本語別科を務める。

**一番大切なのは こころの壁をつくらないこと**

それは日本人も外国人も持っている、中にはゆずれないものや、外部の人間にはなかなか理解できないものもあるかもしれません。それをお互いに尊重して共生するというのは、楽しさもあり、難しさもあると思います。日本にも、外国人にとっては特殊な文化やマナーがありますから、長く日本で生活するのであれば、暮らしに慣れるまで努力や妥協は必要でしょう。また、ときには私たちも日本のルールをしっかりと説明したり、イラストを付けるなど相手に分かりやすい方法で伝えていくことは大事だと思います。

**交流を増やし、分かり合う**

多文化共生を実現する上で大切なのは、やはりまずはあいさつ。コミュニケーションをとることです。言葉があまり分からなくてもあいさつだけでいい、身振り手振りでも。一番大切なのは、こころの壁をつくらないことです。国レベルの話ですが、経済・社会・人的な交流が増えると、戦争が減ると言われています。それは人同士でも同じことだと思っていて、交流を増やし、交流のパイプを太くすることで、



## やさしい日本語を使ってみよう！

日本語に不慣れな外国人には、噛み砕いた日本語で話しましょう。

(例) 休校  
↓  
学校はありません

ゆっくり話す、短く言う、はっきり発音することも大切です！

**困っていたら声かけを**

日常生活の中で、外国人が困る場面というのはいろいろと出てきます。例えば各種手続きだったりとかが、困っている場面を見たら、おせっかいでもいいから声をかけてあげてほしい。もし自分が異文化にいると仮定したら、地域に受け入れてもらえなかつたら嫌ですね。異文化との交流は、自分を客観的に見つめ直すきっかけにもなるんです。

お互いに分かり合い、許し合える関係になつていくものだと思います。偏見や先入観を持ったところから始めてしまったら、理解し合う機会もなく、お互いにとって不幸ですよね。

ねん がつ  
2024年10月  
OPEN!

## 外国人市民相談窓口

Foreign Residents Support Desk

市役所で、生活のこと、市の手続きのこと、相談できます。

**場所** 久喜市役所 3階 市民生活課  
**時間** 月曜日～金曜日(土・日曜日、祝日はお休み)  
9:00～12:00 / 13:00～17:00



窓口では20言語に対応！

問い合わせ 市民生活課自治振興係 内線 2623・2651 | shiminseikatsu@city.kuki.lg.jp

※電話ではやさしい日本語での対応となります。ご了承ください。